

21.9.25 核心

時空超越の答えの中で

ただ 唯一性 再創造

「答えを受けた人々」

序	本	使 2:1-13			結
1. 世界福音化 - 実際 (真の答え)	1. なぜ? (残りの者の 祈りと力)	2. いつ? (巡礼者の 祈りと力)	3. どのように? (征服者の 祈りと力)	1. 簡単なこと	2. 救われた者
2. 私を克服 - ガラ 2:20 (真の福音)	1) 限界 2) ネフィラム 充滿時代 3) 9 時刻表に行く道	1) 神様に向かう姿勢 2) 24, 25, 00 3) RT 7、ヘブ 11 章、 初代教会、巡礼者 (旅人、散らされた者)	1) ひとつ - Trinity 2) " - た、唯、再 3) " - 1, 3, 8 4) " - 感謝、幸せ、力 5) " - いやし、証拠、征服	3. 伝道者	
3. 世の中間題 - 関係 × (真の証人)					

使 2:1-13

- 01 五旬節の日になって、みなが一つ所に集まっていた。
- 02 すると突然、天から、激しい風が吹いて来るような響きが起こり、彼らのいた家全体に響き渡った。
- 03 また、炎のような分かれた舌が現われて、ひとりひとりの上にとどまった。
- 04 すると、みなが聖霊に満たされ、御霊が話さしてくださるとおりに、他国のことばで話した。
- 05 さて、エルサレムには、敬虔なユダヤ人たちが、天下のあらゆる国から来て住んでいたが、
- 06 この物音が起こると、大ぜいの人々が集まって来た。彼らは、それぞれ自分の国のことばで弟子たちが話すのを聞いて、驚きあきれてしまった。
- 07 彼らは驚き怪しんで言った。「どうでしょう。いま話しているこの人たちは、みなガリラヤの人ではありませんか。
- 08 それなのに、私たちめいめいの国の国語で話すのを聞くと、いったいどうしたことでしょう。
- 09 私たちは、パルテヤ人、メジャ人、エラム人、またメソポタミヤ、ユダヤ、カパドキヤ、ポントとアジヤ、
- 10 フルギヤとパンフリヤ、エジプトとクレネに近いリビヤ地方などに住む者たち、また滞在中のローマ人たちで、
- 11 ユダヤ人もいれば改宗者もいる。またクレテ人とアラビヤ人なのに、あの人たちが、私たちのいろいろな国ことばで神の大きなみわざを語るのを聞こうとは。」
- 12 人々はみな、驚き惑って、互いに「いったいこれはどうしたことか」と言った。
- 13 しかし、ほかに「彼らは甘いぶどう酒に酔っているのだ」と言ってあざける者たちもいた。

要約

みなさんは、この時代の伝道者だ。それなら、聖書にあることを必ず見つけて味わうべきだ。時空超越の答えを受けようとするなら、その中にいなければならない。「キリストでただ」この中にいることだ。必ず答えがくる。「神の国、その唯一性」の中にいるのだ。必ず「世界福音化という、ただ聖霊という再創造の働き」が起こる。この中にいれば良い。この時空超越の答えを受けた人々が使 2:1-13 に集まったのだ。初代教会はオリーブ山で、一度契約を聞いて終わらせたのだ。何をしたのでそうだったのか。

□序論

1. 世界福音化が実際に起こることを握らなければならない(それでこそまことの答えになる)

2. 私を越えなければならない(私を克服)。それがガラ 2:20 だ(まことの福音)。

3. 世の中の問題が問題にならない。何の関係もない(まことの証人)。

□本論

1. なぜただ、唯一性、再創造なのか。

(残りの者の祈りと力が必要なためだ)

- 1) 私の限界をもって世界福音化できない。
- 2) ネフィリム充滿時代がきた。彼らが 3 超越をでたらめにしている。
- 3) 9 時刻表に行く道-9 時刻表に行きなさいと神様が私を残されたのだ。

△神様が私に与えられたかたちを回復すること、私の霊的状态を生かすこと、神様が与えられた無限の生命力を、聖霊の満たしを私が受けるのだ。そうしてみると、御座の答えと通じる。時空超越の答えがつながる。それでこそ、237 に光を照らすのだ。すると、神様が私に、教会に仕えられるように、空前絶後の人として準備しておいたことがある。その三つを見つけるのだ。その道を行くのだ。救われた者は誰にでもあるので、他のことを握って苦勞する必要はない。

2. いつしななければならないのか

(巡礼者の祈りと力)

- 1) 山祈り、野原の祈り、特別祈りは神様に向かう姿勢を言う。
- 2) しかし、巡礼者の祈りは 24、25、00 だ。他のことは、みななくてもかまわないほど味わうのだ。
- 3) RT 7、ヘブ 11 章、初代教会、巡礼者(旅人、散らされた者)

△彼らは序論の三つの奥義を持って残りの者、巡礼者の祈りの力の中にいたのだ。

3. どのようにしなければならないのか

(征服者の祈りと力)

- 1) 一つだけした-Trinity (ただ主、ただキリスト、ただ聖霊だけした)
- 2) ただ一つ-ただ、唯一性、再創造
- 3) ただ一つ-1、3、8
- 4) ただ一つで感謝、幸せ、力これだけをずっと味わったのだ。
- 5) ただ一つでいやし、証拠、暗やみの勢力を砕く征服がずっと起きたのだ。

□結論

1. 神様は私たちに最も簡単なことをくださった

2. 救われた者にだけ簡単だ。救われていない人には不可能だ。

3. 伝道者にだけ与えられる力・ただ・唯一性・再創造、9 時刻表の道

この契約を握って祈り始めるのだ。必ず証拠が来て、証人として立つようになるだろう。

<全文打ち出し翻訳>

イエスを信じて適当に信仰生活する人もいます。何、救いは受けます。しかし、世の中に仕えることだけして行くことになります。また、イエスを信じながらも世的な方法で生きる人もいます。救いとは関係はありません。しかし、世の中に、サタンに仕えることは続けることになります。また、教会で、ただ福音だけ話さなくても、いろいろな教訓、教養を話すことはできます。救いとは関係がなくできるのです。しかし、霊的な祝福は分からなくなります。

みなさんは、この時代の伝道者です。それなら、聖書にあることを必ず見つけなければなりません。それを味わわなければならないのです。それゆえ、前の伝道学を少しの間、見る必要があります。

時空超越の答えの中に

時空超越の答えを受けようとするなら、その中にいなければならないと、そう言いました。それが前の伝道学です。この答えの中にいなければならないのです。それが何かということでしょう。

ただ

キリストでただ、この中にいるのです。

唯一性

必ず答えがきます。神の国。その唯一性の中にいるのです。

再創造

そして、必ず世界福音化という、ただ聖霊という再創造の働きが起きようになります。この中にいれば良いのです。

「答えを受けた人々」 (使 2:1-13)

さあ、もう一つ越えて、この時空超越の答えを受けた人々です。このことが重要ですね。この人がここに今、集まるのです。さあ、遊女ラハブは一度、聞いて終わらせました。初代教会も長い時間ではありません。オリーブ山で一度契約を聞いたのですが、そのときから答えが始まるのです。何をしたので、そうなのかということです。

□序論

1. 世界福音化—実際(まことの答え)

みなさんが世界福音化が、実際にならねばならないでしょう。時空を超越する世界福音化が実際に起きなければならぬのです。さあ、これが実際に起きるのを握らなければなりません。そうしてこそ、それがまことの答えになります。これをどうすれば良いのでしょうか。

2. 私を克服—ガラ 2:20 (まことの福音)

また、本当に私を越えなければならないということです。それがガラテヤ 2 章 20 節です。これがまことの福音です。そうです。私がいくら過去が問題になっても関係がありません。越えたから。

3. 世の中の問題—関係× (まことの証人)

また、世の中のすべてが問題ありません。世の中の問題が問題にならない。この話です。これが何の関係もありません。これがまことの伝道で、証人です。パウロもこのように話しました。「あなたがたが倒されても」こう言いました。「迫害を受けても」そう言いました。その話は、倒される目にあうことがあるのです。迫害を受けることもあります。しかし、死なないと言いました。これがまことの証人です。

□本論

1. なぜ

さあ、それなら今日、今、握らなければならない契約は、ただ、唯一性、再創造の理由とはなんでしょうか。これを分かれば良いですね。

2. いつ

するといつしなければなりませんか。これです。

3. どのように

どのようにしなければならぬのでしょうか。みなさん、これを正しく味わうなら、みなさんの生活には必ず働きが起きます。今も答えが来ているのを悟るようになるのです。みなさんに問題が来ているのに、関係なく神様が働かれるようになっています。初代教会がそうしました。この問題(世の中の問題)が何の関係もありません。

ところで、救いの外にいる人は、サタンの手にいるので問題になります。ひどい迫害、患難、わざわざいぐるので問題になります。ところで、私たちは問題にならないのです。これがまことの証人です。そして、私を基準にする必要もありません。なぜでしょうか、すでに越えてしまったから。キリストが私の中におられるので。これがまことの福音です。この部分を分かれば良いのです。

1. なぜ

(残りの者の祈りと力)

なぜ、ただ、唯一性、再創造でしょうか。それこそが、一生忘れてはいけぬ、残りの者の祈りと力が必要であるからです。常に覚えていなければなりません。今出てくるメッセージは、一度聞いて参考にして次に行くのではなく、いつ

も味わう祝福を今、話すのです。

2. いつ

(巡礼者の祈りと力)

いつでしょうか。答えから出さなければなりません。いつしなければならぬかということ、理由を先に知ろうということ。巡礼者の祈りとその力があります。

私が本三冊を紹介しました。100パーセント正しいことではありません。しかし、キリスト教の歴史の伝道者が歩いてきた、そのために、はやく読んでこそ、そのあとで私と対話ができます。読んで下さい。その、本当に生活したことを書いているので、それを見ればです。何、あの3団体が集まっておいて、何、瞑想、子どもの遊びです。それは何でもありません、それは。他人の宗教を話すのではなくて、何か私たちの徹夜祈りやテンプルステイや、そのような祈りではありません。はやく悟って握らなければなりません。

3. どのように

(征服者の祈りとその力)

どのようにしなければならぬのでしょうか。征服者の祈りとその力が必要なので、このようにするのは。それだけ、ただ、唯一性、再創造するのです。

みなさん、誰でも問題があるでしょう。それを勝ち抜かなければならぬでしょう。また、私たちが身体の病気ならば病院に行けば良いのですが、霊的な病気は解決できないでしょう。その、精神科の医者がいないなら、この世に大騒ぎが起こるでしょう。そうでしょう。その人々に薬も与えて、そのようにすると、世の中が安定していますね。狂った人がとても多いです。そうではありませんか。しかし、それは根本解決ではないということです。根本解決をしようとするなら、神様がくださったことが何かを私が握らなければならぬのです。私がそのような病気がないとしても、神様は私たちに世の中を生かす力をくださったのではないですか。それを約束されたのです。

1. なぜ

(残りの者の祈りと力)

なぜ、ただ、唯一性、再創造でしょうか。

1) 限界

私の限界をもってしては、世界福音化はできません。

2) ネフィリム充滿時代

今、ネフィリム充滿時代がきました。この人々が、今、3超越をでたらめにしています。なぜ私たちはできないのでしょうか。聖書で一番重要な話です。

3) 9時刻表へ行く道

それで、さっき伝道学のときに講義した9つの時刻表へ行く道だと、その話です。理由。なぜ私たちを残されたのでしょうか。神様がくださった9つの時刻表に行きなさいと残されたのです。

ほとんど違ったことをします。みなさん、私の話を聞いて落胆しないでください。みなさんが価値がない、みなさんの言葉が価値がない、その話ではありません。それがみな答えとは関係ないということです。

私は、その、あの一般信徒とか、重職者がそのように言うなら、まだ理解できます。ところが、さらに牧師までも、とても間違ったことをたくさん知っています、それではだめでしょう。これは私が牧師をののしるのではなくて、私と同じ立場にあるために言うのです。そうではありませんか。お互いに同じ家族ではないですか。ある必要がありません。教会の信徒が目を開くやいなや、目をとじる時まで、ずっと大変な間違った中にいるということです。私たちが助けなければなりません。

これが難しいと考える人々がいるのですが、違いますね。結論で一度、見ます。この時刻表(9時刻表)に行くことは、とても簡単な道です。一番最初になんでしょうか。神様が私にくださったかたちを回復するのです。目には見えません。私の霊的状态をとても生かすことです。そうでしょう。神様がくださった無限の生命力を、聖霊の満たしを私が受けるのです。その三つです。

そうしてから、御座の答えと通じて。どれくらい幸せなことでしょうか。御座の答えと通じるから、時空超越の答えがつながります。それでこそ、237に光を照らすのです。

それでは、何が出てきますか。神様が私に教会に仕えることができるように空前絶後の人として準備されていることがあります。そうでしょう。その三つを見つけるのです。その道に行くのです。救われた者に誰にでもあるので、他の

ことを握って苦勞する必要がない、この話です。

2. いつ

(巡礼者の祈りと力)

1) 神様に向かう姿勢

いつしなければならないのでしょうか。巡礼者の道を歩むのに、いつしなければならないのでしょうか。山祈りも必要です。そうでしょう。何、野原で祈ることも必要です。特別な祈りも必要です。それは、すべて神様に向かうシステムを言うのです。神様に向かう、ある、その、私の姿勢を言うのではないのでしょうか。

2) 24、25、00

しかし、巡礼者の祈りはそれではありません。これは(神様に向かう姿勢)当然ありますが、24、25 これです(00、永遠です)。24、25 が、たんに出てくるのではないということです。とても神様の祝福の中ですね、他のことはみななくてもかまわないほど味わうのです。

3) RT7

証人を上げます。Remnant7 人です。ヨセフに極限状況が来る前に、先に重要なこれ(序論)が来ました。そうでしょう。ヨセフに先に世界福音化という答えを神様が先に与えられました。そして勝つ道も知るようにされました。これだということです。行く道に問題になることはありません。ヨセフ。ヨセフに、驚くことが展開したでしょう。なぜヨセフをそこに送られたのでしょうか。残りの者。なぜヨセフをそこに、そのような苦難の中に送られたのでしょうか。この(24、25、00)答えを味わう巡礼者として。それで送られたのです。Remnant7 人、みな話さなくても全く同じです。

ヘブ 11 章

すると、ヘブル 11 章の英雄をずらっと集めておいたこと、全く同じです。

初代教会

この人たちが、初代教会が力がある、ないではありません。残りの者の祈りの力の中にあって、巡礼者の力の中にいたのです。

巡礼者(旅人、散らされた者)

みなさん、本格的に教会史を勉強しましょう。それから、巡礼者が起こり始めるのです。私たちはみな巡礼者ですが、聖書にみな同じ話ではないのでしょうか。旅人、散らされた者とあるでしょう。本格的にローマ福音化以後に、大きな問題で、散らされて祈る福音を持つ巡礼者が動き始めたのです。

全く難しいことはありません。今、みなさんが静かに座っていることが難しいのです。霊も難しく、たましいも難しく、からだも難しく、祈るならば難しくありません。そうでしょう。さあ、人の問題をパッと見るとき、そのまま問題を見つめれば難しいです。そうでしょう。祈りながら一度、見つめてください。完全に違います。私は、私に被害を与える人をじっと見つめるとき、その人を見つめれば、おかしな気がします。そうでしょう。祈ってじっと見つめれば……さあ、とても心が良くなって、そうでしょう、助けてあげたくて。

どちらが簡単でしょうか。いや信徒は何でもないでしょうが、みなさんが直ちに信徒が集まれば、困難、不必要なこと、間違ったこと、話をとことん行って消化しなければならなくて、頭の中に。このように、みなさんをだまします。とても重要な人と知って、サタンはずっとお手伝いするようになります。巡礼者の祈り。

3. どのように

(征服者の祈りとその力)

どのようにしましたか。征服者の祈りが始まるのです。

1) 一つー Trinity

一つだけするのです。为什么呢。ただ主、ただキリスト、ただ聖霊。祝祷する時だけ使ったのではなく、常にするのです、ただ。この征服者の道を歩んだのです。

2) 一つーただ、唯一性、再創造

ただ一つを味わうのです。ただ、唯一性、再創造。全く同じです。

3)一つ一、3、8

ただ一つ！ キリスト、神の国、ただ聖霊、同じです。ここも(ただ・唯一性・再創造、1、3、8)父、御子、聖霊、みな入っています。これだけずっと味わうのです。

4)一つ一感謝、幸せ、力

これを持って、ただ一つで感謝、幸せ、力。このようにずっと味わったのです。

5)一つ一いやし、証拠、征服

ただ一つで、なんででしょうか。いやし、証拠、暗やみの勢力を打ち砕く征服。これがずっと起こったのです。

さあ、今から、今後、来年度もそうで実際的な話たくさん出るので、私たちの教会でフォーラムすることにしました。本を読んでフォーラムして。なぜならば、今、出てきている何、瞑想とか呼吸とかみな、修正しなければなりません。修正しなくてはなりません。修正して、聖書にあることで編集しなければなりません。そうでしょう。そして、実際に私たちが神様に向かう、この残りの者と巡礼者と征服者の祈りで設計しなければなりません。その人々が実際に見ることができるようデザインしなければなりません。できるでしょう。そうです。祈っています。もし準備できれば、どのように私たちが一緒に行く教会とよく共有するようにして、世界福音化するか、これも考えています。

私が釜山から、そうしたのではないのでしょうか。私たちの教会だけ、このようにしてはいけません。それでは、世界福音化できません。それがサタンが最も使う方法です。どのようにすれば、福音があかされ、暗やみを打ち砕くか、という話です。私は釜山にはいつも感謝しているのは、したこと、私たちのみな奪い取って持ってきたのですが、釜山はみな同調して従いました。みな奪い取ってきました、悪いことばで。そうでしょう。今はしないのですが、初期に教役者半分は本部の働きをしていたのではないのでしょうか。そのようにしますか。みなさん。謝礼は教会が与えて、働きは本部でして、半分以上が。なぜそうしますか。世界福音化しなければ。暗やみを打ち砕かなければ。サタンを打ちこわさなければなりません。ひざまずかせるのです。これが私たちの戦いです。感謝なことに、教会がよく呼応をこのようにしました。感謝なことでしょう。

□結論

必ず記憶しなければなりません。単なることではありません。

1. 簡単なこと

神様は私たちに最も簡単なことをくださいました。

2. 救われた者

ただ、なぜ簡単でしょうか。救われた者にだけ簡単です。救われていない者は不可能です。これが差です。救われた者は、主だけ見上げることが簡単です。救われていない者は、主だけを見上げることは大変です。救われていない者が主だけ見上げなさい。狂ってしまいますよ、それは。そうでしょう。違いますか。救われた者は、主だけ見上げることが一番楽で良いのです。

3. 伝道者にだけ

伝道者にだけ与えられる力があります。何でしょうか。ただ、唯一性、再創造。これは、他の所に与えてはいけません。伝道者にだけ与えられます。みなさんにだけ与えられること、9つの時刻表の道。そうでしょう。これは霊的なことを知っている人にだけ与えられるから、このネフィリムが粗雑に奪って、世の中を乱れさせているのです。ちょっとすみません。私の説教は、聞けば、一般の人が聞いてもわかることができません。わかる話をしなければならぬのに、わかることもできません、そうでしょう。そして、本当に毎日毎日伝道する人には答えになります。そうではない人は、答えになりません。

しかし、みなさんはこの時代の伝道者です。神様のみことばを聞かなければなりません。神様は初めから父、御子、聖霊、初めから。それだけ、ただ、唯一性、再創造です。初めからです。これからも永遠にそうです。

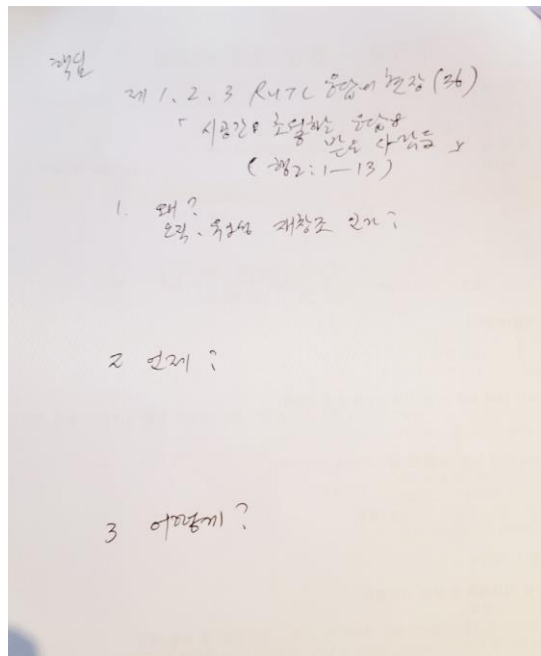
さあ、私たちの今世の中でみなさん学習をこの競争力に対して間違っ理解をさせておいて、私があの人と戦いを戦って勝てば勝つことだと考えをします。そうでしょう。しっかりと前だけ見れば合うのに、それは世の中で教えたことです。

さあ、すると終えながら例をあげてみます。なんででしょう、生意気に遊ぶヨセフを殺そうとしたのですが、売り飛ばしたのです。勝ったのですか。みなさんそれを勝ったことと考えるでしょう。負けです、それが。それが負けたのです。完全に滅びたのです、それが。王権を持ってダビデ、あれ殺すと言いました。5、6回も殺害を試みて、ダビデは逃げたのではないのですか。それを世の中でどのように教えるのでしょうか。サウル王が勝ったと教えるでしょう。勝った

のですか。滅びるのです。ダビデが負けたのでしょうか。そうではありません。このように、世の中の人々は歴史を間違えるように教えたのです。心配することはありません。絶対に、未信者でも神様が真理を変えることはありません。みなさんがこの契約を握って今から祈り始めるのです。必ず証拠がくれば、みなさんは証人として立つようになります。祈ります。

祈り
神様に感謝します。伝道者をたてて全世界に伝道者が起きるようにして下さることを感謝します。世の中の欲でない、ただに行くようにしてください。戦って競争するのではない、唯一性に行くようにしてください。征服でない、再創造に行くようにしてください。イエス・キリストの御名によってお祈りします。アーメン

直筆



제 1, 2, 3 RUTC 통합의 핵심 (36)
시공간의 통합, 인공의 통합, 인공의 통합
(정리: 1-13)

1. 왜?
왜, 무엇, 어떻게, 언제?

2. 언제?

3. 어떻게?